

# 博物館だより



No.230

令和 8 年 1 月 1 日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー  
2026 年 1 月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

休館日 ※情報は R7.12.11 現在

◆博物館「イチオシ」逸品レポート  
この展示（&収蔵資料）  
「ココが見どころ、ココがツボ!!」

昨年「昭和100年・戦後80年」に因んだ多彩な企画や催しが行われています。

当博物館では今年4月、「昭和100周年」の企画展を計画しています。

一方、戦後80年の節目にあたり、今回2点の資料を紹介して、未来へのメッセージにしたいと思います。



▲昭和20年7月に綾野で拾われた伝単  
沖縄後の本土壊滅を予告する内容

●資料解説 平和もたらした回りの卒業式

昭和20年（一九四五）3月10日の東京大空襲は都市部への絨毯爆撃が一般化される前触れとなる一方で、地方都市も狙われる契機となりました。

海軍航空隊築城飛行場に隣接する豊津村は、空襲とは無縁ののどかな村でしたが、この頃から空襲警報が頻発するようになります。3月18日には遂に飛行場と周辺が空襲され、兵士だけでなく住民にも犠牲者が出、それまで「空振り」が続く警報に無警戒だった人々にはわかに神経を尖らせ始めました。

そして迎えた3月31日の旧制豊津中学校卒業式。校長式辞の終了と共に空襲警報が…。会場はパニックとなつて式は中断されました。



▲昭和50年3月1日。現役生の式終了後に昭和19年度卒業生の2回目の卒業式が行われた。50名が参加し、念願を果たした。

※注：文章中の\*は当時の名称

それから30年後の昭和50年、当時の生徒有志が中断した卒業式の再開を計画。参加者は心底平和の尊さを噛み締めながら卒業証書を受け取りました。

●資料名

戦時生活資料群のうち

①館蔵資料（伝単「でんたん」米軍宣伝）

②旧制豊津中学校資料（昭和19年度校務日誌）

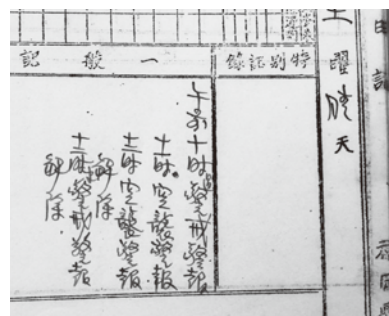
●データファイル

・法量（cm）…①15×10 ②25×17×3

・制作年代…昭和20年（一九四五）

・ポイント…身近な暮らしに戦争がどう関わったのかよく分かる

・公開状況…保存のため通常非公開



▲当時の豊津中学校校務日誌に残る空襲の記録。実害はなかったが直近の築城空襲で緊張感が極度に高まっていた

◆講座・教室・催し物ガイド

## 1月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

1月10日（土） 9時30分～

【古文書講座】

1月17日（土） 10時～

【古典かな講座】

1月24日（土） 9時30分～

【みやこ学講座】

1月31日（土） 10時～

※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途ご案内します。

## 第72回「文化財防火デー」について

1月26日は昭和26年に世界遺産・法隆寺金堂が焼失した日です。この惨劇を教訓に、文化財の防火意識を高め、各種の防火活動を推進する日として文化財防火デーが設けられ、今年で72年目を迎えます。

みやこ町には三重塔をはじめ文化財建造物や博物館のような文化財収蔵施設があり、各施設では毎年防火設備点検や訓練を行っています。

皆さんもこの機会に、身近な文化財の防火について考える日にしませんか。



▲昨年3月に永沼家住宅で行われた防火点検の様子

## 11月の業務日誌から

11月8日（土）、伊良原学園で学習フェスタが開かれ各学年生徒による学習成果発表が行われました。このうち8年生は博物館で「故郷の宝・神楽」学習に取り組みましたが、その成果として神楽上演を行いました。お見事でした！

11月30日（日）、山口県山口市を目的地に博物館文化財研修が行われました。同市の山口博物館や瑠璃光寺・常栄寺を見学し、「西の京」と呼ばれた守護大名・大内氏の栄華を物語る遺産の魅力を堪能しました。



▲好天に恵まれた常栄寺門前にて。記念写真も一段と晴れやか



▲1ヶ月少々でマスターしたとは思えない見事な舞振りでした

# みやこの歴史発見伝 183

## 「昭和100年」と吉田増蔵①

昭和100年

大正15年（1926）12月25

日午前10時20分に元号「昭和」が官報号外で公布されてから今年で100年を迎えます。この「昭和」は62年と14日続いたことから、元号発祥の国である中国を凌いで、現在「世界最長の元号」に位置付けられています。この元号を考案した人物は、みやこ町出身の吉田増蔵（号は学軒）です。「昭和」は、古代中国の歴史書『書経』の一節「百姓昭明、協和萬邦」によるもので、世界平和の願いが込められたものでした。歴史上、「昭和」が元号の候補になったのはこれが最初であり、また日本をはじめ、中国など他の元号使用国でそれまで使われたことがない「完璧な元号」となりました。大正天皇が崩御したその日にうちに「改



吉田増蔵  
(1866~1941)

元」されたため、1926年12月25日は、「大正15年」と「昭和元年」という2つの元号で表記され、1926年の最後の1週間が「昭和元年」となりました。

昨年の「流行語大賞」にもノミネートされた「昭和100年」ですが、現在、日本の総人口のうち、約68%が「昭和世代」であり、またSNS上でも若者を中心に「昭和レトロブーム」が広がりを見せるなど、昨年から「昭和」が注目を集めています。この「昭和」改元から100年を迎える今年、「昭和の原点はみやこ町」というメッセージを発するまたとない機会となっています。今回からこの激動の「昭和」という時代について国内の動向やみやこ町の出来事を中心にご紹介いたします。

### 昭和元年から10年まで

「昭和」改元の3年前となる大正12年（1923）9月1日、関東大震災が発生し、死者行方不明者10万人以上を記録するなど東京は壊滅的な被害を受けました。その後の復興の中で「昭和」という時代が幕を開けます。昭和2年（1927）みやこ町勝山と田川郡香春を結ぶ仲哀隘

道が拡幅されます。昭和6年（1931）2月、豊津出身で「社会主義運動の父」と称された堺利彦が行橋で農民労働学校を開校しますが、2年後の昭和8年（1933）1月23日に63歳の生涯を閉じます。10月1日には、関東大震災で被害を受けた「陸軍造兵廠東京工廠」の機能を北九州小倉に移し「小倉工廠」として開庁していますが、みやこ町出身の人々も従事していたことが確認できます。12月23日、皇太子明仁親王（現在の上皇陛下）が誕生します。この親王の名・称号である「継宮明仁」も吉田増蔵が考案していますが、親王・内親王の誕生に先駆け、昭和4年（1929）頃には考案されていたと伝えられています。

昭和10年（1935）6月27日、30日にかけて大雨が降り、行橋では大水害が発生しました。

### 昭和11年から20年まで

昭和11年（1936）二・二六事件が発生し、11月7日に国会議事堂が完成したこの年、豊津出身の鶴田知也が小説「コシヤメイン記」を発表し、第3回芥川賞を受賞します。11月10日に

豊津中学校（現在の育徳館高等学校）で25年間校長を務めた大森藤蔵校長の顕彰碑が建立されますが、この碑文は吉田増蔵が作成しています。翌年の昭和12年（1937）5月、豊津中学校創立50周年記念式典が挙行され、新たな校歌が制定されますが、この校歌の歌詞も吉田増蔵によって作詞されています。

昭和13年（1938）犀川駅が改築され、本庄池築造工事に着手しました。昭和15年（1940）世界最大を誇った戦艦「大和」が呉で極秘に進水したこの年、築城飛行場が建設され、また翌年の昭和16年（1941）小倉陸軍造兵廠や芦屋飛行場では、みやこ町から勤労奉仕隊として多くの青年が建設などに従事しました。同年12月頃からアメリカ、イギリスに対する開戦に備え宮内大臣は吉田増蔵に「宣戦の詔書」の起草を依頼します。アメリカへの留学経験があり、この時、重度の胃潰瘍を患っていた増蔵はその依頼を断りますが、詔書等の起草能力に長け、開戦までの限られた時間に対応できる人物は吉田増蔵以外に見当たらなかったため、渋々、これを受け

ることになり、病床で起草に取り組みます。この時の無理がたたり、12月8日の真珠湾攻撃による日米開戦から11日後に75歳の生涯を閉じます。葬儀の祭壇には天皇・皇后両陛下や首相などの供物が供えられました。同年、豊津出身でNEC創業者の岩垂邦彦が84歳で生涯を閉じています。開戦による軍需用の石炭需要が高まったことから昭和17年（1942）から戦後にかけて伊良原で石炭が採掘されています。太平洋戦争では、みやこ町でも多くの若者が出征しました。昭和18年（1943）2月には町制施行により犀川村から「犀川町」となり4月10日には節丸・豊津両村が合併し新たな「豊津村」が発足しています。昭和19年（1944）7月には喜多良川が氾濫し甚大な被害が記録されています。戦争の終盤となる昭和20年（1945）戦闘機搭乗員の訓練を目的として犀川木山に滑走路と着艦訓練塔を備えた「犀川補助飛行場」が建設されました。その後広島・長崎に原子爆弾が投下され8月15日に終戦を迎えます。その約1か月後に伊良原村で大水害が発生しています。（井上信隆）